

- 問1 5世紀の日本各地における古墳の分布状況を見ると、近畿地方で誕生した特定の形式の古墳が、九州から東北地方までの広い範囲に築造されていることが分かります。この歴史的背景について説明した文として、最も適切なものはどれか。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 狩猟・採集の生活から、竪穴住居に住む定住生活へと変化した | 2. 仏教の影響により、全国各地で国分寺が建立されるようになった | 3. 大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった | 4. 墾田永年私財法の施行により、地方の有力者が荘園を形成した |
|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
- 問2 「大陸の王朝の力を利用して国づくりをはじめた」とされる5世紀の倭の王について、当時の国際情勢と外交方針を述べた文として正しいものはどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|---|
| 1. 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた | 2. 足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、勘合貿易を開始した | 3. 聖徳太子が遣隋使を派遣し、中国の皇帝と対等な外交関係を築くことを目指した | 4. 元（モンゴル帝国）の侵攻に備えるため、高麗と協力して大陸の情報を収集した |
|---|--------------------------------------|---|---|
- 問3 古墳時代において、特定の地域に限定されず、全国各地で大規模な前方後円墳が築造されたという事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 仏教の影響が全国に及び、共通の儀礼に基づいた埋葬方法が庶民にまで普及したこと。 | 2. 各地の豪族が、大陸から伝わった最新の墓制を競い合うようにして独自に導入したこと。 | 3. 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。 | 4. 狩猟・採集中心の社会から、稲作を中心とする平等な共同体へと社会が変化したこと。 |
|--|---|--|--|
- 問4 5世紀の日本において、埼玉県稲荷山古墳や熊本県江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に銘文として刻まれていた大王の名として正しいものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。 (2025年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|------------|--------|
| 1. 中大兄皇子 | 2. 聖徳太子 | 3. ワカタケル大王 | 4. 卑弥呼 |
|----------|---------|------------|--------|
- 問5 中国の歴史書である『宋書』倭国伝には、5世紀に倭（日本）の王が南朝へ使いを送った「倭の五王」の記録があります。このうち、国内の稲荷山古墳（埼玉県）から出土した鉄剣の銘文に記された「ワカタケル大王」と同一人物であると考えられている王の名称として正しいものを選びなさい。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 倭王 讃 | 2. 倭王 珍 | 3. 倭王 武 | 4. 倭王 済 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問6 古墳時代における渡来人の移動と技術伝来が、当時の日本列島の社会に与えた影響について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、仏教を中心とした国家体制が完成した。 | 2. 青銅器と鉄器が同時に伝わり、金属器を使った道具の製造が初めて行われた。 | 3. 大陸からの技術移転により、日本列島で初めて米作り（水稻耕作）が始まった。 | 4. 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。 |
|--|--|---|---|
- 問7 古墳時代の中期から後期にかけて、大陸から伝わった技術や思想が当時の日本に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 日本独自の文字である「かな文字」が考案され、古今和歌集のような優れた文学作品が生まれた。 | 2. 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。 | 3. 律令国家の仕組みを確立するため、国家の成り立ちを記した日本書紀などの歴史書が作成された。 | 4. 大陸から青銅器の製作技術が伝わり、農耕の収穫を祝うための祭りの道具として普及した。 |
|---|---|---|--|
- 問8 4世紀から5世紀にかけての古墳時代、大陸から日本列島へ移り住んだ渡来人によって伝えられた、青灰色で非常に硬い土器の名称を答えなさい。 (2023年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|---------|
| 1. 縄文土器 | 2. 土師器 | 3. 須恵器 | 4. 弥生土器 |
|---------|--------|--------|---------|
- 問9 近畿地方を中心に現れた、一方が四角形で他方が円形をした鍵穴のような形の古墳が、時代とともに全国各地（東北南部から九州）へと広がっていった事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。 (2021年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 大陸から渡来した人々が、日本各地に共通の墓制を直接伝えたこと | 2. 稲作の技術が全国に普及し、各地の農民が協力して巨大な墓を造ったこと | 3. 大和政権（ヤマト王権）の勢力や政治的な影響力が、地方にまで拡大したこと | 4. 仏教の教えが各地に広まり、新しい埋葬の形式が全国で統一されたこと |
|-----------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
- 問10 埼玉県の稲荷山古墳から「大王」という称号が刻まれた鉄剣が出土した事実は、当時のヤマト政権の支配状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと | 2. 律令に基づいた中央集権国家が完成し、全国に役人が派遣されていたこと | 3. 仏教の布教活動を通じて、全国の豪族が精神的に統一されていたこと | 4. 関東地方の豪族が、中国の皇帝から日本全体の支配権を認められていたこと |
|------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
- 問11 5世紀に「倭の五王」が中国の南朝へ繰り返し使者を送り、朝貢を行った背景や目的についての説明として、最も適切なものを選択してください。 (2024年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 日本独自の元号を定めるにあたり、中国の皇帝から許可を得ることで、東アジアにおける地位を確立しようとしたため。 | 2. 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。 | 3. 冠位十二階や憲法十七条などの新しい制度を導入するため、先進的な政治体制を直接学ぶ官僚を派遣する必要があったため。 | 4. 白村江の戦いでの敗北を受け、唐や新羅による日本侵攻を防ぐために、中国との友好関係を急いで構築する必要があったため。 |
|---|--|---|--|
- 問12 中国の歴史書『宋書』倭国伝には、5世紀に中国の南朝へ相次いで使者を送り、自身の地位を認める称号を求めた「讃・珍・済・興・武」という5人の王が登場します。これらの王を総称して何と呼びますか。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|--------|--------|---------|
| 1. ヤマトの大王 | 2. 渡来人 | 3. 遣隋使 | 4. 倭の五王 |
|-----------|--------|--------|---------|
- 問13 紀元1世紀から17世紀までの東アジアにおける日本の対外関係をまとめた年表において、最も古い時期に記される「後漢への朝貢」に関連する問いです。当時の倭の奴国の王が中国の皇帝から授かったとされる、現在の福岡県志賀島で出土した品物はどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 1. 勘合貿易で用いられた割符 | 2. 「漢委奴国王」と刻まれた金印 | 3. 「親魏倭王」と刻まれた金印 | 4. 「日出処天子」と記された国書 |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった	近畿地方の大王（後の天皇）を中心とする大和政権が、各地の豪族と政治的な同盟や支配関係を結んだことで、勢力の象徴である前方後円墳という同じ形式の古墳が共有されるようになりました。国分寺は8世紀の奈良時代、荘園の拡大は平安時代以降、竪穴住居は縄文・弥生時代からの住居形式であり、5世紀の古墳時代の動向を説明するものではありません。
問2	答え 1 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた	5世紀の倭の王たちは、中国の南朝に使いを送り、皇帝から「安東大將軍」などの称号を授かりました。これは中国の国際秩序の中に組み込まれることで、朝鮮半島南部での自国の影響力を正当化し、他の諸国との交渉を有利に進める狙いがありました。他の選択肢は、飛鳥時代、鎌倉時代、室町時代の出来事です。
問3	答え 3 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の墓の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問4	答え 3 ワカタケル大王	埼玉県の新倉山古墳や熊本県の江田船山古墳からは、「ワカタケル大王（獲加多支鹵大王）」の名が刻まれた鉄剣や鉄刀が出土しました。これにより、5世紀後半にはヤマト王権の支配が関東から九州におよんでいたことがわかります。
問5	答え 3 倭王 武	中国の南朝に朝貢した「倭の五王」のうち、最後に登場する「武」は、新倉山古墳の鉄剣銘文にある「ワカタケル（獲加多支鹵）大王」と同一人物であるとする説が有力です。当時の倭の王は、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうため、中国の皇帝から称号を得ようと外交交渉を行っていました。
問6	答え 4 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。	古墳時代に朝鮮半島から渡来人が移住したことで、須恵器の製造技術に加えて漢字、儒教、仏教、機織などの高度な文化や技術が伝わり、日本の技術や生活文化が飛躍的に発展しました。
問7	答え 2 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。	渡来人によってもたらされた技術は多岐にわたります。実生活では、灰色の硬い土器である「須恵器」が作られるようになり、精神面や政治面では、国家の統治原理にもつながる「儒教」や、後に鎮護国家の思想へと発展する「仏教」が伝えられました。他の選択肢にある「かな文字」や「古今和歌集」は平安時代、「青銅器の祭器化」は主に弥生時代、「日本書紀」の完成は奈良時代の出来事であり、時期や内容が異なります。
問8	答え 3 須恵器	古墳時代になると、朝鮮半島などから移住した渡来人によって、新しい技術や文化がもたらされました。その一つである須恵器は、それまでの弥生土器などが野焼き（低温）で焼かれていたのに対し、斜面を利用した「登り窯」を用いて1000度以上の高温で焼成されました。この技術革新により、実用的で堅牢な土器の生産が可能となりました。
問9	答え 3 大和政権（ヤマト王権）の勢力や政治的な影響力が、地方にまで拡大したこと	各地の有力者が大和政権と同じ形式の古墳を築くことは、その有力者が大和政権と政治的な結びつき（同盟や服属）を持っていたことを意味します。このため、前方後円墳の分布範囲を調査することで、当時の大和政権の影響力がどこまで及んでいたかを推測することができます。
問10	答え 1 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと	埼玉県の稲荷山古墳から「大王」の名が記された鉄剣が見つかったことや、熊本県の江翁山古墳からも同様の銘文を持つ鉄刀が見つかったことは、ヤマト政権の政治的な影響力が九州から関東までの広い範囲に及んでいたことを証明する重要な資料となっています。これは、各地の有力な豪族がヤマト政権の支配下に組み込まれていった過程を物語っています。
問11	答え 2 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。	ヤマト王権の王たちは、中国の皇帝から「安東大將軍」などの高い称号を得ることで、日本国内における絶対的な権威を確立しようとしていました。また、当時の朝鮮半島では高句麗や新羅、百濟が対立しており、その中での軍事的な優位性を国際的に承認させる狙いもありました。
問12	答え 4 倭の五王	5世紀に中国へ使者を送った5人の王は「倭の五王」と呼ばれます。当時の日本（倭国）は、東アジアの国際情勢の中で有利な立場を得るため、中国皇帝を中心とした冊封体制（朝貢外交）に加わり、自らの権威や軍事的な指揮権を証明する称号（官職）を求めて外交を展開しました。
問13	答え 2 「漢委奴国王」と刻まれた金印	紀元1世紀（西暦57年）、倭の奴国の王は中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授けられました。これは、当時の日本の小国が中国の皇帝に朝貢することで、自らの支配の正当性を認めさせようとした初期の事例です。この金印には「漢委奴国王」と刻まれており、江戸時代に志賀島で発見されました。